# 再 評 価 調 書

Т	事業概要	-	_				
事業名 急傾斜地崩壊対策事業   地区名 石垣内区域							
_							
争	業箇所	豊田市中金町地内					
	業のあ らまし	石垣内区域は愛知県の中部、豊田市中金町に位置し、保全対象として人家 20 戸および市道が被害想定区域内に位置する急傾斜地である。当該箇所は、地質は強風化花崗岩で、崖高が 40m、勾配 42°であり、その崖下には住宅がせまっており、非常な危険な状態である。このような状況であるため、地元住民から急傾斜事業への要望が非常に強い箇所である。					
事	事業目標 【達成(主要)目標】   ・人家 20 戸を急傾斜地の崩壊による土砂災害から保全する。   【副次目標】   ・なし						
				事前評価時	再評価時	変動要因の分析	
		事	業期間	H22∼H26	H22~H30	・隣接砂防事業に伴う計画修	
	·画変更 の推移	事業費	貴(億円)	2. 00	3. 17	正による変動	
=1		経費 内訳	工事費	1. 38	2. 76		
			用補費	0. 09	0. 11		
O.			その他	0. 53	0. 30		
		事業内容		擁壁工 L=221m	擁壁工 L=221m		
□ 評価							
	1) 必要	更性	【事前評価				
	の変化		・急傾斜地の崩壊から保全対象を保全する必要がある。				
			【再評価時の状況】				
1			・保全対象等に変化はない。				
①事業の必要性の変化			【変動要因の分析】				
			・なし				
			A: 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B: 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。				
			B C: 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。				
10	判定					ハと判断される場合は、「事業着 、	
				手時」を「前回評価	時」に置き換えることが	ができる。	
			【理由】・事業着手時からその必要性について変化はないため。				

#### 1) 進捗状 【事業計画及び実績】 況 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 工種 調査・設計 区分 用地補償 **→** 工事 • **→** ・擁壁工 2.00 1.80 事業費 計画 (億円) 1.37 実績 【進捗率】 れまでの計画に対する達成状況 全体進捗状況 達成率(%) 【②÷①】 進捗率(%) 実績 計画 計画 $(2 \div 3)$ [2] (3) 延 長(m) 115 52.0% 52.0% 221 2.00 ②事業の進捗状況及び見込み 事業費(億円) 1.37 68.5% 3.17 43.2% 80.4% 2.76 40.29 工事費 1.38 1.11 0.09 0.06 66.7% 54.5% 用補費 0.11 その他 0.53 0.20 37.7% 0.30 66.7% 【施工済みの内容】 ・擁壁工 L=115m ・区域内の総合的な土砂対策を進めるため、別途砂防事業を進めており、この堰堤工事に必 2) 未着手 又は長 要な仮設道路と本事業の計画施設位置が重複するため、砂防事業の工程と調整しながら工 期化の 事を進める必要が生じたため、長期化している。 理由 3) 今後の 【阻害要因】 事業進 砂防事業との工程調整。 捗の見 込み 【今後の見込み】 ・急傾斜事業として阻害要因はないため、砂防事業の堰堤工事が完了すれば、急傾斜事業を 進めることができる見込み。 A: 事業は順調であり、計画通り確実な完成が見込まれる。 B: 多少の阻害要因があるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しが В あり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 C: 阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。 判定 【理由】 砂防事業との工程調整に不測の日時を要したため、事業期間を延長した。この計画の見直し

## Ⅲ 対応方針

継続

中止:上記①~③の評価で一つでもC判定があるもの。

継続:上記以外のもの。

## Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容

## ■対象(事業完了後5年目) □対象外

### 【主な評価内容】

・急傾斜地崩壊防止施設や保全対象の状況から事業効果を確認する。

により阻害要因が解決され、今後は、ほぼ計画どおりの事業進捗が見込まれるため。